

年 組 名前：

性別で先入観 日常に根深く

単身赴任するのは父親、受付は女性。連合が無意識の思いこみや偏見（アンコンシャス・バイアス）について組合員など約5万人を調査したところ、「思い当たる」と答えた人は95・5%に上った。性別などに基づく先入観が職場や日常生活で根深く浸透し、何げない言動に影響している様子が浮き上がった。

調査は昨年6～11月にインターネットで実施。偏見を含む20事例から自分で思い当たるケースを全て選ぶ形式で、10～70代の5万871人が回答した。

1人当たり平均5・7件の「偏見」を選択。最多は「親が単身赴任」という父親を想像する（母親を想像しない）で、66・3%の人が自分も思い当たると答えた。性別に基づく先入観は他に「DVと聞くと男性が暴力を働いている」と想像する（女性を想像しない）45・7%、「お茶出し、受付対応、事務職、保育士」という女性を思い浮かべる39・2%が目立った。働き方では「育児中の社員・職員に負荷の高い業務は無理と思ってしまう」39・0%、「パートタイムは主婦が家計補助のために働いている」というイメージがある35・6%など。連合の山根木晴久総合局長は「アンコンシャス・バイアスは時に弊害をもたらす。自分にも先入観があると自覚することが第一歩」としている。

(2021年2月19日付 山梨日日新聞 15面)

問1 連合が行った「性別などに基づく無意識の思い込みや偏見」調査によると、①何%の人が「思い当たる」と答えましたか。また、②偏見などが多かったケースを3つ書いてください。

① 「 %」

② .
.....
.
.....
.
.....

問2 世界経済フォーラムが公表した2019年ジェンダーギャップ(男女格差)指数では、153カ国中、日本は過去最低の何位だったか調べ、①～③のうち正しいものに○をつけてください。

「 」① 34位 「 」② 89位 「 」③ 121位

問3 あなたは、性別などによる思い込みや偏見をなくしていくためには、どんな取り組みなどが必要だと思いますか。

.....
.....